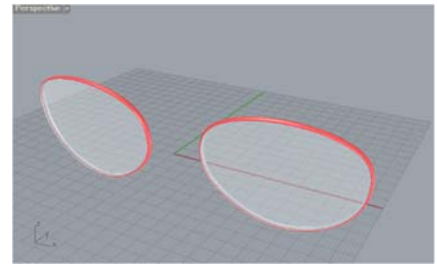


眼鏡デザイン業務の省力化を目指したプログラム開発

(株)メガネトップ
キングスター工場（鯖江市）

令和元～3年度 地域科学技術振興研究事業
令和5年度 技術指導

問合せ先 呉藤勝彦、(藤田茂治)



メタル枠のパースペクティブビュー

背景と経緯

福井の眼鏡業界では、約20年前から3DCADソフトを活用した眼鏡設計業務の省力化に取り組んでおり、当初は、福井県工業技術センターが主宰する「3D研究会」等にて盛んに情報交換が行われていました。しかし、その後の度重なるOSやソフトウェアの更新により、その対応は徐々に会社レベルで実施する状況となっていました。

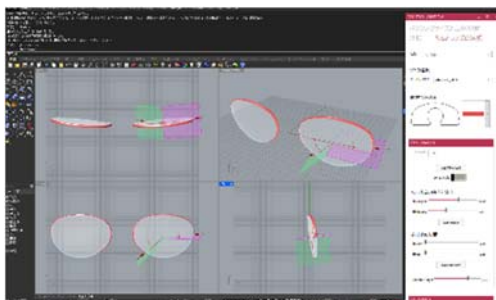
そのような中、一昨年に漆器業界向けにデジタル技術によるレリーフの作成方法などを紹介した技術普及講習会において、眼鏡関連企業から眼鏡設計業務への展開の要望があり、(株)メガネトップキングスター工場のご協力のもと、同社のデザイン開発手法に基づくプログラム開発を行いました。

具体的には、3D研究会で使われてきた3DCADソフトであるライノセラスト同ソフトウェアのビジュアル系プログラミング言語であるグラスホッパーを用いて、デザインの初期段階のパターン化されたボクシングサイズの調整業務等を簡単に実施できるプログラムを開発しました。

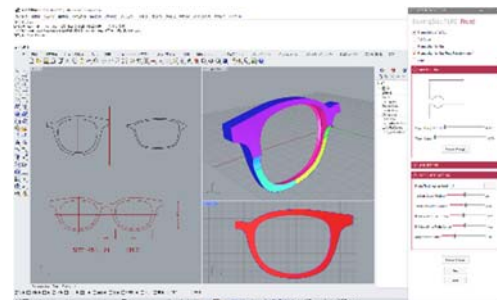
成果と製品化の状況

眼鏡のデザインおよび設計工程は、玉型と呼ばれるレンズ形状を決定していくことからスタートします。この玉型のデザイン形状は、高さや幅の寸法やレンズ間距離等を既定の寸法に仕上げる必要があるほか、レンズの中心軸の傾きをつけるなど、常にパターン化されたCAD操作に時間を要するのが課題となっていました。デザインイメージの発想に始まりリムの選定を短時間で、こうした作業をスライダーや数値入力の簡単な方法により代替するプログラムを開発したことで、従来の1/10まで省力化できています。

現在は、プラ枠とメタル枠について開発したプログラムをご利用可能です。



メタル枠（ハーフリム）の設定画面



プラ枠の設定画面